

第3回 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 次第

日 時 平成27年2月3日（火）
14:15～15:15
場 所 本庁舎4階政策会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

・成長・発展プラン（H24～H26）の総括について

4 閉 会

成長・発展プラン(H24～H26)の総括に係る資料

■地下鉄7号線延伸と浦和美園～岩槻地域成長・発展に関する最近の動向(前回以降)

- 8月25日 平成26年度 第2回 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議
- 9月2日 第1回地下鉄7号線延伸検討会議
- 9月28日 日光御成道 ふれあいウォーキング(浦和美園駅⇒七里総合公園⇒岩槻駅) 参加者約760名
- 10月16日 市議会地下鉄7号線延伸事業化特別委員会
- 11月3日 岩槻人形供養祭及び城下町岩槻鷹狩り行列
- 11月4日 地下鉄7号線建設誘致期成同盟会 国要望
- 11月14日 第2回地下鉄7号線延伸検討会議
- 11月20日 地下鉄7号線建設誘致期成同盟会 県要望
- 12月6日 地下鉄7号線乗車会(主催:期成会 小石川後楽園、東京ドームホテル、浅草寺等) 参加者162名
- 12月7日 平成26年度第2回まちづくり勉強会
- 12月13日 市民方策 江戸木目込人形制作体験講座(会場:岩槻駅東口コミュニティセンター) 参加者29名
- 12月15日 市議会地下鉄7号線延伸事業化特別委員会 協議会
- 1月15日 第3回地下鉄7号線延伸検討会議
- 1月19日 平成26年度 第3回 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 作業部会
- 2月3日 平成26年度 第3回 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 開催

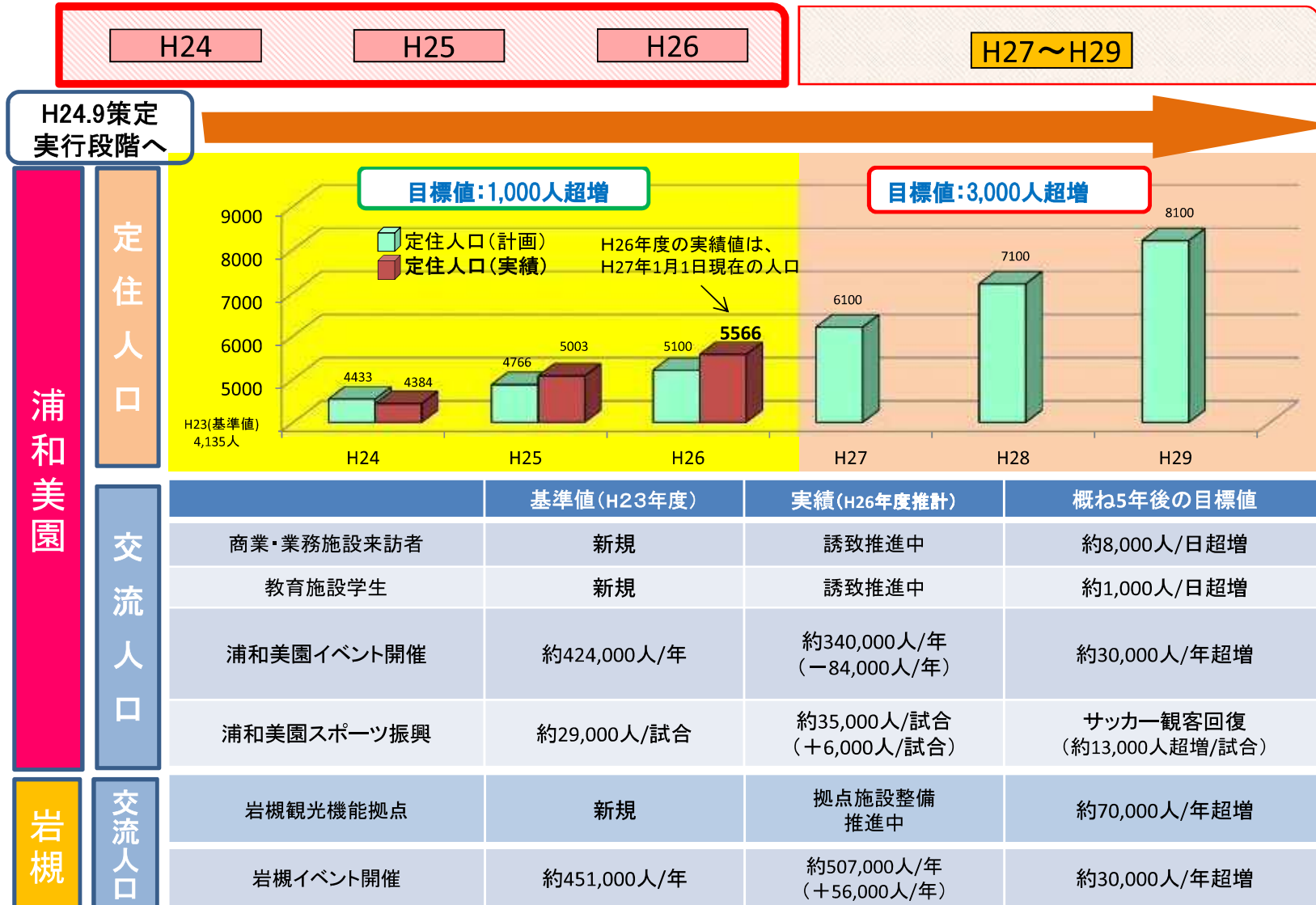
今後の主な予定

- 2月16日～学んで！遊ぶ！岩槻 宝探しアドベンチャー(主催:期成会) 3月3日まで
- 2月21日～人形のまち岩槻まちかど雛めぐり 3月15日まで
- 3月1日 人形のまち岩槻流しびな

成長・発展プラン(H24～H26)の進捗状況

プランの展開

平成24年 浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの策定
43方策について、全庁挙げて取り組み、下記の成果を上げている



※H26の実績: 浦和美園と岩槻のイベント参加人数はH26.12時点の実績を踏まえ推計、浦和美園スポーツ振興による人数は確定値

成長・発展プラン(H24~H26)の成果

成果と課題

43方策

成果(抜粋)

H27以降効果発現

浦和美園

- ①定住人口について
- 第I期成果
区画整理事業の進展、景気の回復等により定住人口は堅実に増加(目標を上回って達成)
 - 今後の見通し
今後も大規模な保留地処分により、今後も定着人口増が見込まれる
 - 課題
地権者の積極的な土地活用
- ②交流人口について
- 第I期成果
各種施設誘致活動中、SRが積極的にイベント開催、サッカー観客数も回復中
 - 今後の見通し
誘致活動を継続
 - 課題
集客力の高い施設、イベント開催が必要
サッカー観客数の回復方策が明確でない

基盤整備進展



【基盤整備】

イベント増強



【埼玉スタジアム観客増】

【SRフリマ・鉄婚・車両基地見学会】

継続

・施設誘致



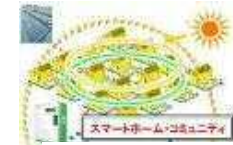
【企業・教育機関等】

・公共施設整備



【複合公共施設】

・ブランド化



【スマートホーム・コミュニティ】

岩槻

- ①交流人口について
- 第I期成果
駅舎整備等推進中(目標を上回って達成)
 - 今後の見通し
駅舎、西口駅前広場など供用開始
 - 課題
旧区役所跡地の観光拠点化、人形会館等の早期整備による交流人口の大幅増

イベント増強



【鷹狩行列等】

計画策定



【岩槻マスタープラン】

【歴史街道】

継続

・駅舎等基盤整備



【駅舎整備】

・人形会館整備



【人形会館】

次年度事業概要(案)

方策の推進

浦和美園 定住人口

①土地活用促進



【基盤整備】 【保留地分譲】



【公共施設整備】【地権者土地活用】

②ブランド化



【スマートホーム】 【UDCM】



【超小型モビリティ】 【公園】

基盤整備等を推進しつつ、ブランド化を図り、住宅建設を加速

浦和美園 交流人口

③施設誘致



【商業・業務、教育、医療福祉施設誘致】

④イベント創出



【埼玉スタ観客増】 【マラソン】



【フリマ】 【マルシェ】

施設の誘致を確定しつつ、イベントの増強、新規誘致を図る

情報発信
強化

岩槻 交流人口

⑤拠点整備(人形文化・観光)



【駅舎整備】 【人形会館整備】



【回遊の環境整備、歴史街道等】

⑥イベント創出



【イベントの魅力増、同一開催】



【おもてなし、ガイド】

人形会館を中心とした拠点の整備により、1日回遊、リピート化する環境整備、イベント来訪者増へ

延伸線全体(中間駅含む) 移動量増

⑦地域資源を活用した移動の創出



【見沼たんぼへ】



【目白大学と連携】



【農業体験、味覚狩りへ】



既存の資源活用と、交流促進、来訪者増へ

平成 26 年度 第 3 回浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 議事概要

1. 日 時：平成 27 年 2 月 3 日（火）14：15～15：15
2. 会 場：さいたま市役所 4 階 政策会議室
3. 出席者：（座長）清水市長、（副座長）木下副市長、遠藤副市長、本間副市長
（委員）技監、政策局長、政策局理事、財政局長、市民・スポーツ文化局長、
環境局長、経済局長、都市局長、建設局長、見沼区長（代理）、緑区長、
岩槻区長

4. 議事概要

（1）あいさつ（座長）

- ・浦和美園～岩槻地域の成長・発展については、43 方策を着実、かつスピーディーに実行して頂き感謝する。
- ・特に、みそのウィングシティについては、幹線道路の整備や宅地の造成などの都市基盤整備が順調に進み、着実に定住人口が増加してきている。
- ・全市的にも、「しあわせ実感都市・選ばれる都市」の実現に向けて全庁を挙げて取り組んでいる。地下鉄 7 号線についても、岩槻までの延伸を一日も早く実現するため、成長・発展プランに掲げた方策を着実に推進する必要がある。
- ・本日は、平成 24～26 年度の総括について、委員の活発な議論をお願いしたい。

（2）事務局より、議事「成長・発展プラン（H24～26）の総括について」を説明

- ・成長発展プランの平成 24～26 年度の総括について事務局説明

（3）議事に関する意見交換（委員等の発言）

○スマートホーム・コミュニティについて

- ・スマートホーム・コミュニティのコンペについて、昨年 8 月から 9 月末まで、プレエントリーということで参加募集を開始し、5 つの事業者から参加希望があった。その後、11 月 21 日から約 1 ヶ月、プロポーザル方式による、正式な提案募集を実施したところ、3 事業者から企画提案があった。その後、選定委員会を開催し、最優秀企画提案者を選定し、現在、協議を実施しているところである。

○（仮称）アーバンデザインセンターみそのについて

- ・（仮称）アーバンデザインセンターみそのについて、情報発信機能の充実、まちな人が集える機能の充実も予定し、平成 27 年度創設を目指している。民間サービスにより、安全・安心、快適で便利な暮らしの展開を、共働きの世帯、そして子育て世代をターゲットとして検討している。

- ・まちの低炭素化、そして地域のエネルギーセキュリティの確保という狙いもある。環境未来都市の実現を目指す本市にとって、人や企業を呼び込む、さいたま市モデルといったものにしていければと考えている。
- ・昨年 8 月末にまとめた基本構想に基づき、産学公の体制で準備を進めている。学として市内大学である慶応大学、理工学部の教授にリーダーとして参画して頂いている。また、産として美園に大型中核施設を構えている会社や市内で安全・安心の総合商社として事業展開している会社に参画頂き、積極的な事業展開案とアドバイスを頂いている。10 年位を目途に民間事業としての自立を前提として、地域に必要なサービスと、収益の見込める展開を検討している。

○ライフスタイルの提案について

- ・(仮称)アーバンデザインセンターみそのと関連する、魅力の美園ライフスタイルの提案業務委託について報告する。昨年の集中審議を踏まえ、まず浦和美園のポテンシャルの分析、あるいはブランドコンセプトの構築を委託により今年度中に策定して、来年度、(仮称)アーバンデザインセンターみそのと相乗効果で情報発信していくことを考えている。
- ・また、美園地区は総合振興計画上、副都心として位置づけており、今までの 3 局連携に加え、総合振興計画の所管課も参画し、あわせて検討を進めてもらっている。
- ・(仮称)アーバンデザインセンターみそのを利用して、地権者、デベロッパー、ハウスメーカーが興味を引く様な魅力的なライフスタイルを提供していきたいと考えている。コンセプトが明確になり、キャッチコピーなどができれば、さらにインパクトを与え、定住・交流人口の増加にも寄与するものとする。
- ・なお、現在、名称は(仮称)アーバンデザインセンターみそのUDCM(※1)としているが、柏ではUDCK(※2)であり、愛媛の松山では、既にUDCMを名乗っておりネーミングも今後大事になってくる。

※1 UDCM：(仮称)アーバンデザインセンターみそのの略称

※2 UDCK：アーバンデザインセンター柏の略称

○超小型モビリティ推進事業について

- ・超小型モビリティ推進事業について、国交省の認定を受け、実証実験を行っている。昨年の 10 月、11 月の 2 か月で、大宮駅周辺地域において、カーシェアリングの実証実験を行い、現在その結果をまとめているが、450 名近くの会員が集まった。ぜひ、これを来年度は浦和美園で展開していきたいと考えている。新しいカテゴリの創出として費用負担の少ないこの小型車のシェアリングを普及させることで、蓄電池としても使える。さらに認知度を向上させて、新しい交通システムとして、社会実装を目指し、ブランドの一つとして打ち出していければと考えている。

○浦和美園地区の土地区画整理事業の進捗状況について

- ・平成 25 年度の事業進捗率として、都市再生機構施行の浦和東部第二地区が約 79%、岩槻南部新和西地区が約 71%であった。今年度も施行は順調に進めており、今年度末では 80%台中ごろの進捗になる見込みである。岩槻南部新和西地区の進捗が、若干浦和東部第二地区よりも遅れていたが、今年度、地権者の理解を得られた部分が、岩槻南部は多くあり、事業進捗もほぼ同じ位の進捗になる見込みである。また、平成 27 年度予算の執行により、90%台後半位にできるのではないかと考えている。また、平成 27 年度において、予定されている事業負担金については、ほぼ完了できるのではないかと予測している。
- ・なお、都市再生機構施行の地区は、平成 28 年度完了に向けて対応して頂いている。市施行の浦和東部第一地区は、概ね 4 年から 5 年程度遅れて換地処分を予定しているが、短縮に向け事務所と検討、調整しているところである。

○岩槻駅周辺のまちづくりについて

- ・浦和美園と岩槻の副都心の 2 つを結び、ともに成長・発展させることが重要。美園は定住人口も増加し、成長が見えてきている。一方、岩槻については、副都心として、途中経過の目標はあるが、将来的にどのような副都心像にするというところがよく見えていない気がする。
- ・総合振興計画や都市計画マスタープランにおいて、将来像は示している。
- ・人口減少に対処するための岩槻のまちづくりを考える必要がある。
- ・岩槻の副都心のあり方と現実感のある数値目標についても考える必要がある。

(4) 座長より会議の総括

○浦和美園の定住人口は順調に伸びており、今後も加速をさせたい。また、交流人口も出来る限り増加を図る必要がある。

○岩槻駅周辺地区の副都心としてのあり方、取るべき対策について検討を要する。現段階から関係局において継続して検討を実施する。

- ・岩槻の人口が減少傾向にあり、大きな課題となっている。交流人口の更なる増加に加え、定住人口の視点も加え、新たな対策が必要と考える。
- ・数年先、又は将来の青写真として、こういう副都心にしていくという、そのあり方について、イメージをはじめ、フレームなど数値的な目標についても検討する必要がある。

【事務局】政策局 東部地域・鉄道戦略室